

2022年度第2回札幌競馬特別レース名解説

<第1日>

○ コスモス賞

コスモス（Cosmos）は、キク科の春蒔き一年草。メキシコを主とした熱帯アメリカ原産で、日本には明治時代に伝わったとされる。和名は秋桜（アキザクラ）。花色は白・桃・紅色などで、夏前に咲く早咲き種などの園芸品種もある。花言葉は「乙女の真心」「美麗」。

○ 羊ヶ丘特別

羊ヶ丘（ひつじがおか）は、札幌市豊平区にある地名。戦前、付近に種羊場が開設されたことから羊ヶ丘と呼ばれるようになった。石狩平野を見渡すことのできる展望台には、「Boys Be Ambitious（少年よ大志を抱け）」の言葉を残したウィリアム・スミス・クラーク博士の全身像が置かれている。

○ TVh賞

TVhは、札幌市に本社を置くテレビ北海道の略称。平成元年開局で、TXN（テレビ東京）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第2日>

○ 石狩特別

石狩（いしかり）は、石狩川河口にある北海道中西部の市。また、北海道にあった旧国名。サケなどの漁業が盛んで、サケの身やアラを用いた郷土料理である石狩鍋が有名。

○ 藻岩山特別

藻岩山（もいわやま）は、札幌市南区の山。標高531m。山頂展望台からは、平成27年に日本新三大夜景に認定された札幌市を一望でき、360度の大パノラマが広がっている。また、札幌競馬場の屋上テラス席「もいわテラス」から藻岩山を望むことができる。

○ UHB賞

UHBは、札幌市に本社を置く北海道文化放送の略称。昭和47年開局で、FNS（フジテレビ）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第3日>

○ 千歳特別

千歳（ちとせ）は、北海道の中南部、石狩平野南端の市。市の中央部には新千歳空港が、西部には国立公園支笏湖がある。

○ 富良野特別

富良野（ふらの）は、北海道中央部の市。観光産業が盛んで、特にラベンダーが有名。夏には、見渡す限り一面のラベンダー畑を楽しむことができる。

○ タイキシャトル追悼競走 札幌日刊スポーツ杯

本競走は、去る8月17日（水）に死亡したタイキシャトル号の生前の功績を称えて追悼競走として実施される。

日刊スポーツは、日刊スポーツ新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同紙の北海道版を発行している、北海道日刊スポーツ新聞社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○ クローバー賞

クローバー（Clover）は、ヨーロッパ原産のマメ科の一年草または多年草の総称。四つ葉のものは幸福のシンボルとされ、五つ葉は金銭の幸福を、六つ葉は地位・名声を手に入れる幸福を、七つ葉は最大の幸福を意味する。四つ葉の花言葉は「幸福」「私のものになって」。

○ 札幌市制100周年記念大通公園特別

本競走は、札幌市制100周年を記念して実施される。

大通公園（おどおりこうえん）は、札幌市の中心部に位置する公園。「さっぽろ雪まつり」や「さっぽろ夏まつり」の会場として市民や観光客に親しまれている。

○ サマー2000シリーズ札幌記念（GⅡ）

全5戦で実施されるサマー2000シリーズの第4戦。

本競走は、昭和40年に創設された重賞競走。44年以降、3歳以上のダート2,000m、ハンデキャップ競走として実施されていたが、芝コースの新設により、平成2年から芝2,000mに変更された。9年にはGⅡへ格上げされ、札幌と函館の開催日割が入れ替わったことに伴い、実施時期が6月から8月に移され、負担重量が別定重量となった。18年には負担重量が定量に改められ、現在に至る。

○ 手稲山特別

手稲山（ていねやま）は、札幌市西区と手稲区との境にある山。標高 1,023m。名は、アイヌ語の「テイネイ（ぬれているところ・湿地）」に由来する。山麓付近にはスキー場やゴルフ場などがあり、平地部は住宅地となっている。

<第5日>

○ ルスツ特別

ルスツ（留寿都）は、北海道南西部の村。名は、アイヌ語の「ル・スツ（道が山のふもとにある）」に由来する。遊園地・ゴルフ場・スキー場などを備えたルスツリゾートが有名。

○ ニセコ特別

ニセコは、北海道西部の地名。ニセコアンヌプリの南、羊蹄山の西側の地域を指す。世界でも有数のスキーリゾート地で、海外からも多くの観光客が訪れる。

<第6日>

○ 小樽特別

小樽（おたる）は、北海道西部石狩湾に臨む市。名は、アイヌ語の「オタオルナイ（砂浜の中の川）」に由来する。現在は、大正時代に完成した小樽運河やその兩岸に並ぶ煉瓦の倉庫がレトロな雰囲気を出しており、多くの観光客が訪れる。

○ サマースプリントシリーズキーンランドカップ（GⅢ）

全6戦で実施されるサマースプリントシリーズの第5戦。

本競走は、平成8年にオープン特別競走として創設され、競走条件や距離の変更を経て、18年にGⅢとして格付けされた重賞競走。

なお、第1着馬には同年のスプリンターズステークスへの優先出走権が与えられる。

キーンランド競馬場は、アメリカ合衆国ケンタッキー州レキシントンにある競馬場で、周辺は馬産地として世界的に有名。同競馬場では競馬開催のほか、年数回サラブレッドのセリ市も行われている。

<第7日>

○ 札幌スポニチ賞

スポニチは、スポーツニッポン新聞社から発行されているスポーツ紙スポーツニッポンの略称。北海道地方では、札幌市に所在するスポーツニッポン北海道支局が、同紙を発行している。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 日高ステークス

日高（ひだか）は、北海道の旧国名のひとつ。現在の日高振興局管内に相当する。国内有数の軽種馬生産地として世界的にも知られている。管内の浦河町には、JRA の競走馬育成調教施設である日高育成牧場があり、同牧場では育成調教技術の普及に努めている。育成された競走馬は主に JRA ブリーズアップセールで売却され、JRA 育成馬としてデビューする。

○ 農林水産省賞典札幌2歳ステークス（GⅢ）

本競走は、『北海道3歳ステークス』の名称で昭和41年に創設された重賞競走。58年に『札幌3歳ステークス』に改称したのち、平成13年の馬齢表記の国際基準化に伴い、現在の名称に改められた。当初は、ダート1200mの競走として実施されていたが、芝コースの新設により芝1200mに変更され、平成9年には距離が1800mに延伸された。

<第8日>

○ すずらん賞

すずらんは、キジカクシ科の多年草。中部地方以北の本州や北海道に自生し、高さは15～25cm。初夏に花茎を伸ばし、白い釣鐘形の小花を総状につける。札幌市の花にも選ばれている。花言葉は「純粹」「幸運が戻ってくる」。

○ 釧路湿原特別

釧路湿原（くしろしつげん）は、北海道東部、釧路市の北側に広がる約20,000haの面積を誇る日本最大級の湿原。昭和55年に日本で初めてラムサール条約登録湿地の指定を受けた。一帯が釧路湿原国立公園に指定されており、タンチョウ（丹頂）の生息地としても有名。

○ 丹頂ステークス

丹頂（タンチョウ）は、ツル目ツル科の鳥。「丹」は赤色を意味し、頭頂部が赤いことから丹頂と呼ばれており、北海道の道鳥に指定されている。一時は絶滅したとも思われたが、大正 13 年に釧路湿原で十数羽生存しているのが発見され、その後、国や自治体による保護活動が行われた結果、現在では約 1,500 羽の生息が確認されている。